# DI ニュース 10 月号 🎃　2026.10.31 発行

明理会中央総合病院
薬剤部　DI 室

【概要】
1. 新規採用薬
　外来限定採用　：　ゼップバウンド
　臨時採用(患者限定)
2. 供給
3. 採用変更
4. 添付文書改訂
5. 添付資料

## 1.　新規採用

### ①院内採用

該当なし

### ②外来患者限定採用

持続性 GIP／GLP-1 受容体作動薬
ゼップバウンド皮下注 7.5mg アテオス　7721 円/7.5 mg 1 キット
ゼップバウンド皮下注 10mg アテオス　8999 円/10 mg 1 キット
ゼップバウンド皮下注 12.5mg アテオス　10180 円 12.5 mg 1 キット
ゼップバウンド皮下注 15mg アテオス　11242 円/15 mg 1 キット
【組成】 1 キット中チルゼパチド 7.5mg、10 mg、12.5 mg、15 mg
【効能効果】
〇肥満症
※ただし、高血圧、脂質異常症又は耐糖能障害(2 型糖尿病、耐糖能異常等)のいずれかを有し、食事療法・運動療法を行っても十分な効果が得られず、以下に該当する場合に限る。
　・BMI が 27kg/m2 以上であり、2 つ以上の肥満に関連する健康障害を有する
　・BMI が 35kg/m2 以上
〇中等症以上の閉塞性睡眠時無呼吸症候群　※ただし、BMI が 27kg/m2 以上に該当する場合に限る。
【用法用量】
＜肥満症＞
　通常、成人には、チルゼパチドとして週 1 回 2.5mg から開始し、4 週間の間隔で 2.5mg ずつ増量し、週 1 回 10mg を皮下注射する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、週 1 回 5mg まで減量、又は 4 週間以上の間隔で 2.5mg ずつ週 1 回 15mg まで増量できる。
＜中等症以上の閉塞性睡眠時無呼吸症候群＞
　通常、成人には、チルゼパチドとして週 1 回 2.5mg から開始し、4 週間の間隔で 2.5mg ずつ増量し、週 1 回 15mg を皮下注射する。なお、忍容性が認められない場合には、週 1 回 10～15mg の範囲で投与量を調整することができる。

## 2.　供給

### ●出荷調整

・ジノプロスト注射液 1000μg　：他社製品影響に伴う限定出荷

### ●販売中止

・フラボキサート塩酸塩錠 200mg「サワイ」
・プロブコール錠 250mg「サワイ」
・ゾピクロン錠 10mg「トーワ」
・ボンゾール錠 100mg,200mg

・ヤクバンテープ 60mg
・ラニラピッド錠 0.05mg

**●出荷再開**
・ポリフル錠 500 mg

**3.　採用変更　※①-③:在庫消尽次第切り替え　④:在庫消尽次第終了　⑤:マスタ閉鎖**
**①内服**
［院外採用］
・ファムシクロビル錠「トーワ」 → 「サワイ」 :販売終了に伴う変更
・ゾピクロン錠 10mg「トーワ」 → 「サワイ」 :販売終了に伴う変更
・アゼラスチン塩酸塩錠 1mg「トーワ」 → 「NIG」 :経過措置に伴う変更

**②注射**
・スパイクバックス筋注シリンジ　→　エムネクスパイク筋注シリンジ 12 歳以上用

**③外用**
・ユーパスタ軟膏　100g/本　→　30g/本

**④院内採用終了（在庫消尽次第採用終了）**
・スポンゼル（7 ㎝×10 ㎝） :2026/9/30 経過措置のため完全終了
・ウロマチック S 泌尿器科用灌流液 3%　:販売終了のため、在庫消尽次第終了。泌尿器科・手術室確認済

**⑤院外採用終了　※経過措置薬品は経過措置日にマスタ閉鎖**
・チクロピジン塩酸塩錠 100mg「YD」 :26/9/30 経過措置、処方患者なし
・トラニラスト DS5%「CH」 :27/3/31 経過措置、処方患者なし
・バファリン配合錠 A81　:26/9/30 経過措置、直近処方患者なし

**4.　添付文書改訂**
キイトルーダ点滴静注 100mg
●4.効能又は効果
　白金系抗悪性腫瘍剤抵抗性の再発卵巣癌　を追加。
●5.効能又は効果に関連する注意
＜白金系抗悪性腫瘍剤抵抗性の再発卵巣癌＞
　5.38　臨床試験に組み入れられた患者における白金系抗悪性腫瘍剤を含む化学療法終了後から再発までの期間、前治療歴等について、「17.臨床成績」の項の内容を熟知し、本剤の有効性及び安全性を十分に理解した上で、適応患者の選択を行うこと。（17.1.41 参照）
　5.39　本剤の手術の補助療法における有効性及び安全性は確立していない。

注射用メソトレキセート 5mg,50mg
●4.効能又は効果　追加
　＜造血幹細胞移植時の移植片対宿主病の抑制＞
●7.用法及び用量に関連する注意
　＜造血幹細胞移植時の移植片対宿主病の抑制＞
　造血幹細胞移植時の移植片対宿主病の抑制に本剤を使用する際の本剤の投与量や免疫抑制剤との併用については診療ガイドライン等の最新の情報を参照すること。

バベンチオ点滴静注 200mg

●8.重要な基本的注意

8.11 ぶどう膜炎があらわれることがあるので、眼の異常の有無を定期的に確認すること。また、眼の異常が認められた場合には、速やかに医療機関を受診するよう患者を指導すること。(11.1.19 参照)

●11.1 重大な副作用 追加

11.1.19 ぶどう膜炎(頻度不明) (8.11 参照)

11.1.20 血球貪食性リンパ組織球症(頻度不明)

**5. 添付資料**

医療安全情報 No.239 「患者の体内に植込まれた 医療機器等の不十分な確認(第 2 報)」

医薬品・医療機器等安全性情報 No.433

DSU No.349